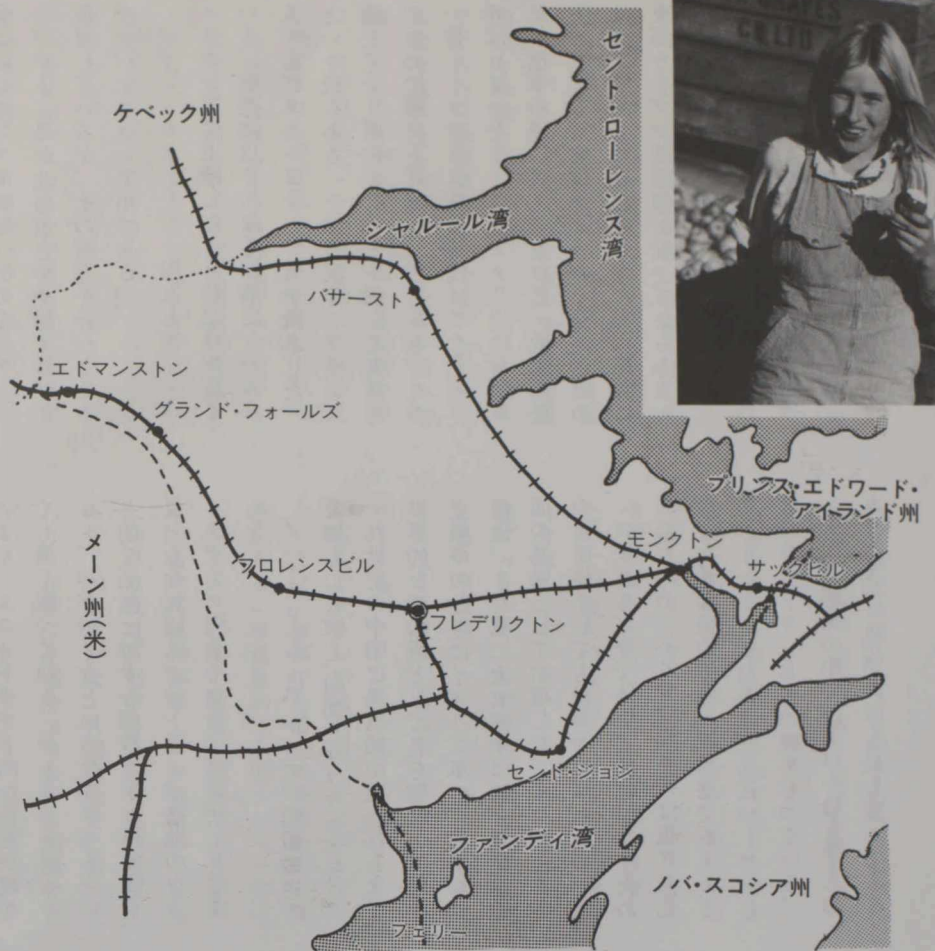


ニュー・ブランズウィック州



などの針葉樹を中心とする森林におおわれている。商業林は千六百万エーカーもあり、紙パルプ産業の原料を提供している。紙パルプの年間出荷高は、九億ドルをこえる。

鉱業が本格的になったのは、一九五〇年代にニュー・ブランズウィック大学の学生がバサースト地域の硫黄鉱を分析したところ、鉄と硫黄のほか相当量の亜鉛、鉛、銅、銀などを発見したのがきっかけであった。

同州は、現在、アンチモンとビスマス

でカナダ最大、亜鉛で第三位、鉛と銀で第四位、銅で第六位の生産地である。一九八三年の鉱業生産は五億一千七百万ドル。一九九〇年までには、十億ドルに達するものと予測されている。

農業の中心はポテト栽培。ポテトは、州の農民にとって、最大の換金作物であり、生産総額は年間一億五千万ドルにのぼる。フロレンスビルにあるマケイン・フーズ社は、世界最大の冷凍ポテト製品メーカーとして知られる。ポテトのほか、酪農や畜産、穀物、果実、野菜などの栽

培も盛んだ。

漁業は大西洋沿岸四州のなかでは最も生産量が低い。魚種は五十種類をこえ、その多くが米国、ヨーロッパ、日本などに輸出されている。

電力資源も豊富で、水力、火力、原子力などによって生産された電力の余剰分は、他の州や米国に送られている。

資源産業が、今後ともしばらくは州経済の柱となることは間違いないだろう。しかしながら、金属加工、機械、プラスチック加工、電気製品、食品加工などの製造工業部門の拡大が目覚ましく（総出荷額は年間三十億ドルをこえる）、経済基盤は急速に変わりつつある。大西洋沿岸で石油や天然ガスの開発が進むにつれ、かつて世界で最も多くの商船を造っていたセント・ジョンの造船所では、掘削船などの製造に忙しい。



セント・ジョンのマーケット。

芸術活動は、文学と音楽を中心に、長い歴史をもっている。「文学があふれている」といわれるほど、ニュー・ブランズウィックは作家や出版社が多いが、地域の慣習や気風を扱ったものが多いせいも、人気はほとんどの場合州内にとどまっている。ただし、五年前にフランスのゴンクール賞に輝いた女流作家アントニーヌ・マイエウイリアム・フォークナーの作風に似ているといわれるデビッド・アダムズ・リチャーズの作品は、全国的に読まれている。また州都フレデリクトンは、プリンス・カーメンやチャールズ・G・D・ロバーツなどを中心にカナダ最初の文芸運動が起こったところで、いまでも「詩人の巣」として知られる。ニュー・ブランズウィック大学が発行している『ザ・フィドルヘッド』は、カナダ最古の文芸雑誌だ。

音楽や演劇の分野でも、英国およびフランスの伝統をいかした活動が州内外から高い評価を受けている。歌手のエディ・ス・バトラーやローズマリー・ランドリはアカディア出身だし、州の合唱団はいろいろな国の音楽祭に参加している。

ニュー・ブランズウィックが北アメリカでユニークなのは、工芸技術だ。機械時代が到来する前に人々の生活が確立されていたのと、十九世紀には比較的孤立していたこともあって、住民はさまざまな道具を自らの手で作らなければならなかった。その伝統もあってか、織物を中心に、装飾品、手作り家具、陶芸品などに見るべきものが多い。